

玻璃さゝえきれざる棧や隙間風
フレームの玻璃をさゝえて釘曲る
フレームのずりさがる玻璃つくろはず
涸れ瀧のベンチひつくり返りけり
露地塀におしつけられて火事見舞
賀状書く名簿こぼれの名を拾ひ
じつとしてゐる子はまれやクリスマス
ちぎれ雲焼けて初日のまだ出でず
牙折りし氷柱雫を落さざる
湯疲れの虜となりし避寒かな
海の日沈めば終る絵踏かな
空高く戸樋はづれみし雪解かな
首洗池のひねもす凍て解けず

短冊のきりきり舞ひて梅散らず
倒れたる海苔簀ところをかへて干す
干し網の浦々海苔に富めりけり
よき月のいづちに泊てむ流し雛
月花の心さぐらむ西行忌
切通し椿うなづくことやめず
幹一つなる紅椿白椿
笑はせてくれし祝辞や卒業す
空わたる有馬風の落花かな
汐干茶屋実生ばかりの松原に
相打てる梢をふまえ囀れる

二〇一七年一〇月二四日